

にほんばし 日本橋まちづくりアイデアコンペ

受賞機関 国土交通省関東地方整備局東京国道事務所

1. はじめに

明治44年に架橋され、平成11年には国の重要文化財に指定された現在の日本橋。高度成長期、東京オリンピックを間近に控え、緊急に整備された首都高速道路が、日本橋の上空を覆うように建設され、都市景観を阻害するとともに、重要な社会資本である日本橋の価値を下げていくという見方が近年支配的になってきている。一方、東京都心では近年、丸の内や汐留、六本木などの再開発によって新名所が誕生し、高級ブランド店の進出が相次ぐ銀座、表参道が集客力を増しているのに比べ、日本橋地域のまちづくりが後れをとったという印象は否めない状況にある。

このような状況にあって、今後、後世によりよい日本橋を伝えていくためには、都市景観との調和を図りつつ、まちづくりとも連携した首都高速道路の再構築を進める必要があると考えられ、現在、学識経験者や地元有識者による「懇談会」(「日本橋みちと景観を考える懇談会」座長：中村英夫武蔵工業大学学長)を設立し、具体的諸方策について検討を進めているところである。



首都高速道路が上空を覆う現在の日本橋

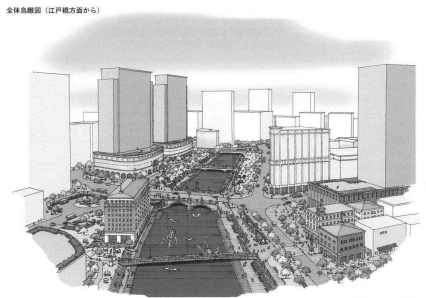
2. 「日本橋まちづくりアイデアコンペ」の概要

これらの状況を踏まえ、文化遺産としての日本橋と地域について考え、将来の日本橋地域のまちづくりの方向性を具体的に検討するためには地域と行政が協働してその方向性を模索するとともに、多くの方々アイデア等を活用し、より幅広い視点からの検討、地域住民を中心とした地域再生に向けた機運を高める必要があると考えられるため、その一試みとして、多種多様なアイデアを広く全国から公募する「日本橋まちづくりアイデアコンペ」(審査委員は「懇談会」メンバーのうち学識経験者及び地元有識者で構成)を実施した。

本アイデアコンペは「懇談会」主催のもと、平成

16年4月から実施、8月に応募を終了、9月の一時審査会、11月の公開による最終審査会を経て同年12月18日に表彰式を行った。

本コンペには、この日本橋地域関係者のみならず、日本全国及び少数ではあったが海外から、また、デザイン事務所、コンサルタント会社、大学、建設会社等、幅広いジャンルの方々からの応募がなされ、その数は324件にも上った。応募された作品は、日本橋上の首都高速道路をどのように処理するかという観点については、地下化案、日本橋川沿いのビルとの一体整備案、上下線分離案等、さまざまな提案がなされ、どの案においても、水辺空間をいかに魅力的なところにしていくべきかという点では共通していた。また、まちづくりに関しても、さまざまな非常に現実的なアイデアが作品の中に盛り込まれており、今後の方向付けの足がかりになるものであった。



最優秀賞「日本晴大公園」

3. おわりに

本アイデアコンペには、当初の予想を上回る沢山の応募があった。これは、日本橋という地域が、立地的にも、また歴史的にみても魅力的であり、ポテンシャルの高い地域であることの証といえるものである。現在、「懇談会」では、本コンペにより提案いただいたさまざまなアイデアを踏まえ、首都高速道路のあり方、さらには、日本橋地域のまちづくりの検討を進めているところであり、今回の「まちづくりアイデアコンペ」といった試みは、まちづくりへのさまざまなアイデアを提案いただく貴重な取り組みであっただけでなく、日本橋地域のまちづくりを、地域住民だけでなく、より幅広く多くの方々に考えてもらうよい機会になったといえる。

最後に、多くのアイデアを応募いただいた皆様に対して感謝申し上げます。